



埋文だより

第94号

令和7年2月28日発行

鹿児島県の知られざる歴史を解明

「かごしま遺跡フォーラム」開催



将棋盤（鹿児島城二之丸跡）

トイレ遺構（諏訪ノ前遺跡）

令和6年11月2日（土）に、鹿児島県立図書館で、「かごしま遺跡フォーラム」を開催しました。

今回は、昨年度報告書が刊行された^{こうだいじあと}光台寺跡（指宿市）^{しょうしん}、照信^{いんあと}院跡（大崎町）^{だいがんじあと}、大願寺跡（さつま町）^{ろくたんがまる}、六反ヶ丸遺跡（出水市）と、同じく昨年度発掘調査を行った鹿児島城二之丸跡（鹿児島市）^{にのまるあと}、諏訪ノ前遺跡（阿久根市）の報告を行いました。

また、上野原縄文の森展示館リニューアルオープンと、「南の縄文文化魅力発信事業」についての発表も行いました。

目次

- ・かごしま遺跡フォーラム…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2～3
- ・現地説明会を実施…………… 4～5
- ・ワクワク考古楽in徳之島…………… 6
- ・河コレ遺跡巡り（宇宿貝塚）…………… 7
- ・自宅で遺跡を見学しよう…………… 8



旧石器時代から紡がれる先人たちの営み

みなみみずがさこ
—南水ヶ迫B遺跡（志布志市志布志町帖）—

あぶらつ なつむ
南水ヶ迫B遺跡は、油津・夏井道路建設

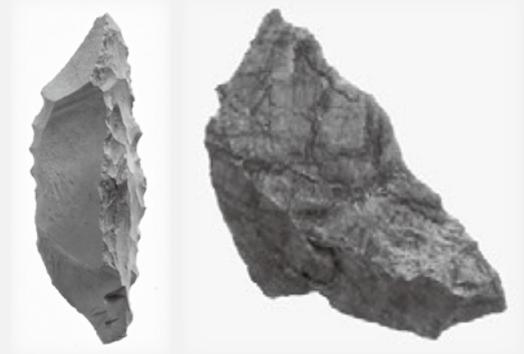
に伴い、令和5年5月から発掘調査を行っています。
本遺跡は、志布志市街地の東側、志布志湾を望む標高約55mの台地上に位置しています。

令和6年度の調査では、今から約500年前の溝跡や多数の道跡、縄文時代の調理に使われたとされる連穴（れんけつ）土坑（どこう）や集石遺構（しゅうせき）などの遺構を検出し、遺構に伴う土器や石器もたくさん見つかっています。さらに、旧石器時代の石器製作跡も見つかるなど、さまざまな時代の遺構や遺物が見つかっています。

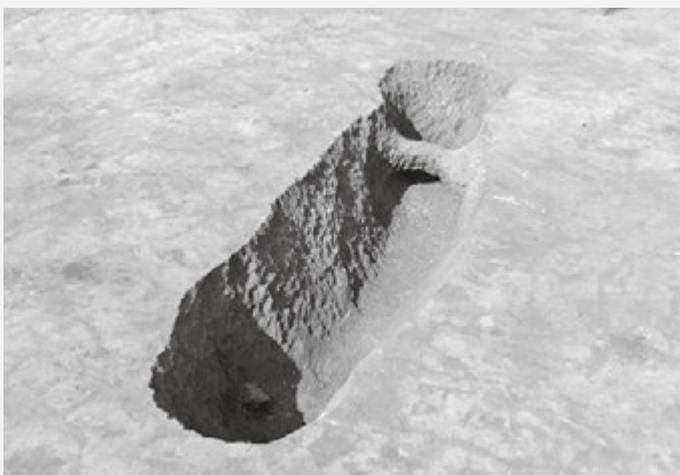
特に今年度は、今から約26,000年前に桜島から噴出した火山灰（桜島P17）を含む層から、加工された剥片（はくへん）や石錐（せきすい）（ドリル）、少し上の新しい層から三稜尖頭器（さんりょうせんとうき）やナイフ形石器、約12,800年前の薩摩火山灰層下からは、細石刃（さいせきじん）や細石刃核が見つかるなど、旧石器時代の遺物が見つかっています。



南水ヶ迫B遺跡空撮（奥の山は陣岳）



三稜尖頭器と加工痕のある剥片（約26,000年前）



連穴土坑（縄文時代早期）



集石（縄文時代早期）



起伏の激しい場所に住む人々

のくびいせき
—野首遺跡（志布志市志布志町帖）—

野首遺跡は、日南・志布志道路建設に伴い、令和5年5月から発掘調査を行っています。本遺跡は、志布志湾沿岸から北に約3 kmの標高約50mのシラス台地上に位置しています。

令和5年度は遺跡東側の調査を行い、旧石器時代から古墳時代までの様々な成果を得ました。特筆すべきは、縄文時代早期（約1万年前）の集石が80基以上検出されたことです。縄文人がこの辺りを調理場として利用していたことがわかりました。また、令和6年度は、遺跡西側を調査しています。縄文時代後期（約4,000年前）や古墳時代（約1,500年前）、室町時代（約600年前）の遺構・遺物が多く見つかっています。

縄文時代早期の石錘（石のおもり）や、平安時代（約1000年前）の土錘（土のおもり）が数点ずつ見つかりました。遺跡の東側には前川が流れ、南側は志布志湾を望みます。1万年前から志布志の人々の生業のひとつに漁労（魚や貝をとること）があったと考えられます。

また、中国産の青磁や白磁・華南三彩、四耳壺などのアジア諸国産の陶磁器、他地域からもたらされた国産の陶器など、中世の陶磁器が多数見つかっています。

本遺跡は大性院というお寺の存在を示す地名の地に存在し、遺跡の南西には志布志城跡や麓集落もあることから遺跡周辺が栄えていたことがわかります。遺跡の様子や立地から志布志と都とのつながりや貿易の中継点としての志布志の役割が見えてきそうです。



野首遺跡空撮（奥は志布志湾）



石錘（縄文時代早期）



土錘（平安時代）



現地説明会

県立埋蔵文化財センター、(公財)県文化振興財団埋蔵文化財センターが、
会を開催しました。

—南水ヶ迫B遺跡(志布志市志布志町帖)—

主催：(公財)埋蔵文化財調査センター



土坑の説明(縄文時代早期)

令和6年12月7日(土)に、現地説明会が行われました。当日は少し肌寒い日でしたが、105人が訪れました。

中世ごろのものと考えられる溝状遺構や、縄文時代早期の集石や土坑、旧石器時代の遺物が出土している様子などを見学しました。

また、遺物展示ブースでは、遺跡で出土した中世の中国製陶磁器や縄文時代の土器・石器、旧石器時代の石器のほかに、近隣の野首遺跡で出土した遺物も展示され、多くの人が遺物に見入っていました。



集石の説明(縄文時代早期)

見学と並行して発掘体験も行われました。縄文時代早期(約9,000年前)の地層をシャベルや両刃鎌を使って掘りました。

掘り進めていくと、「カチッ」と音がして、縄文人が使った土器や石器等の遺物が出土していました。出土した遺物を見失わないように、出土した場所に竹串を立てて、記念写真を撮る姿があちらこちらで見られました。普段なかなかできない体験が、いい思い出になっていただけたら幸いです。



地層の説明



発掘体験の様子



会を開催



埋蔵文化財調査センターは、12月に2遺跡の現地説明

しもじょうあと
 一 下城跡（始良市北山）一
 主催：県立埋蔵文化財センター



始良市北山に所在する下城跡では、令和6年12月22日（日）に、現地説明会が行われ、この日も肌寒い中でしたが160人が訪れました。遠くは福岡県、熊本県からの参加もあり、注目度の高い現地説明会となりました。

下城跡は、戦国時代の山城跡で、これまでの調査において、多くの曲輪（建物が建っていたと思われる平坦面）や、曲輪と曲輪の間に設けられたからぼり空堀が見つかっています。今回の説明会で、その特徴を紹介しました。曲輪では、建物の柱跡と思われる穴や炉と思われる土が焼けた跡が見ついていること、また、空堀では埋まった土の様子等を紹介しました。

また、併せて「南の縄文文化展」を北山伝承館で開催しました。こちらもたくさんの方々がお見えになり、発掘調査で見つかった遺物等を興味深くご覧になっていました。

県立埋蔵文化財センター及び（公財）埋蔵文化財調査センターでは、県民の皆様へ埋蔵文化財のことをより広く知ってもらえるよう、各種事業を展開しています。特に発掘調査現場においては、郷土の先人たちの知恵・功績について紹介し、埋蔵文化財に関する理解を深めていただくことを目的とした遺跡公開も開催しています。実施する遺跡や日時については、ホームページ等で随時お知らせします。



曲輪内の遺構の説明



空堀の説明



南の縄文文化展の様子



ワクワク考古楽 in 徳之島

12月5・6日の2日間、徳之島の伊仙町の小中3校でワクワク考古楽・出前授業を行いました。

面縄中学校では、日本の歴史と徳之島の歴史の流れを年表で学習し、遺跡地図を見て自分の家や近くに遺跡がないか確認したり、面縄貝塚などの遺跡がどの時代にあたるかを学んだりしました。昼休みの火起こし体験では、さすが中学生、すぐにコツを覚え、ほぼ全員火を付けることができていました。

喜念小学校では、すぐ近くにある喜念貝塚や、面縄貝塚などの遺跡を紹介し、出土した遺物に触れたり、縄文時代の長さを紙テープで確認したりしました。火起こし体験は上級生と下級生と一緒に組んで行いました。なかなか火を付けることができず、20分ほどで1組が付けることに成功、その後ぞくぞくと成功しましたが、時間切れの児童もいて、「次はいつ来るんですか?」と聞かれたときは寂しい思いがしました。

面縄小学校では、学校が位置する面縄貝塚について学習しました。縄文時代から生活したり、墓に使われたりしていたこと、出土して資料館で展示されている人骨が、ひみこ卑弥呼の時代のものより古いことなどを聞いて、とても驚いていました。

どの学校も、児童生徒は質問に積極的に発表してくれたり、保護者や先生方も参加し、興味を持って聞いてくださったりと、とても楽しい雰囲気での授業を行うことができました。



火起こし体験の様子（喜念小学校）



授業の様子（喜念小学校）



授業の様子（面縄中学校）



授業の様子（面縄小学校）

河コシ遺跡めぐり

河口貞徳氏の歩んだ遺跡
うしゆくかいづか

⑧宇宿貝塚（奄美市笠利町宇宿）

かわぐちさだのり



県立埋蔵文化財センターでは、長年県考古学会の会長をつとめられた故河口貞徳氏の寄贈資料を整理・活用する事業に取り組んでいます。『埋文だより』では、これまで河口氏が取り組んだ代表的な遺跡調査を振り返り、貴重な遺物や発掘当時の様子等を紹介したいと思います。みなさんもぜひ遺跡のあった場所を訪れて、先人の暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょうか・・・。

宇宿貝塚は、奄美市笠利町宇宿に所在します。宇宿貝塚は、戦前の1933（昭和8）年に京都大学の三宅宗悦氏^{みやけむねよし}によって発見されました。奄美大島の北部に位置し、遺跡の南側には奄美空港があります。昭和61（1986）年に国史跡に指定され、現在は宇宿貝塚史跡公園として保存、公開されています。

戦後、1954（昭和29）年5月に、南日本新聞社と鹿児島大学の主催による奄美大島学術調査団によって奄美諸島全域の調査が実施され、河口氏が宇宿貝塚の試掘調査を行いました。その際、別々の層から2種類の土器が出土していることが分かりました。

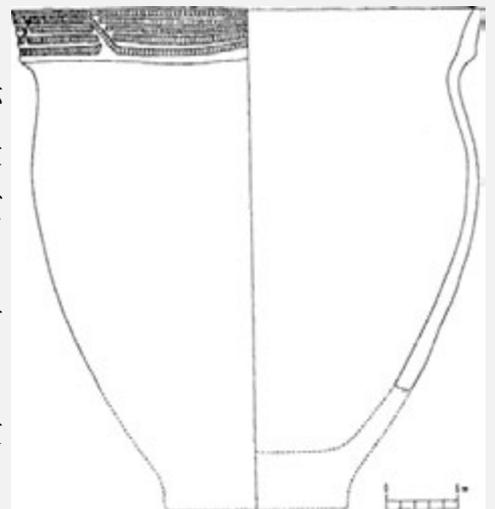
その後、1955（昭和30）年7月20日から8月10日にかけて九学会連合奄美学術調査団により発掘調査が実施され、河口氏も参加しました。調査の結果、石組遺構^{ろあと}が検出され、建物跡であることが判明しました。遺構内からは炉跡^{ろあと}が検出され、大型の土器片が出土しました。この土器は宇宿上層式土器と呼ばれ、本遺跡が標式遺跡となっています。土器は、第6層、第7層、第8層から多く出土しました。上層から無文土器、下層から有文土器が出土し、それぞれ宇宿上層式土器、宇宿下層式土器と名づけられました。宇宿下層式土器が出土した層からは、縄文時代後期の市来式^{いっそうしき}、一湊式土器が出土しました。

1978（昭和53）年8月、笠利町教育委員会は、宇宿貝塚の性格と範囲を確認するために調査を行い、河口氏は調査主任として調査の全般を統括しました。調査では、石組住居跡、貯蔵穴と思われる落ち込み、また母子の埋葬跡が確認されました。

母子の埋葬跡は、ガラス製のアクセサリーをつけた20代の女性人骨と、その両足の間には新生児の人骨が埋葬されていました。人骨の状態や埋葬の状況から、身分の高い女性であったことがうかがわれます。埋葬した人々の、亡くなった女性や赤ちゃんに対する思いが伝わってきます。



宇宿貝塚位置図



宇宿下層式土器実測図



加工痕のある骨製品

自宅で遺跡を見学しよう（3D・AR体験）

当センターでは、遺跡そのものや、そこで見つかった遺構・遺物を3DデータにしてWeb上で公開しています。3Dデータにすることで、遺構・遺物を立体的に見ることができ、発掘している遺跡の様子をリアルに感じることができます。

また、AR (Augmented Reality, 拡張現実) 技術により、遺跡で発見された遺構や遺物を、スマートフォンやタブレットの画面内に現実の景色と重ねて表示し、実際に中を見学をしているような体験をすることができます。

以下のQRコードをスマートフォンやタブレット等で読み取り、遺構や遺物を目の前でご覧ください。当センターホームページでは、今回紹介したデータ以外も公開していますので、ぜひアクセスして楽しみください。

※ スマートフォンやタブレットのOSのバージョン、機種等によってはご覧いただけないことがあります。

※ ARをご覧いただくためには、「STYLY」という無料アプリが必要です。QRコードを読み込むと、インストール画面に移行しますので、案内に従い操作をしてください。



野首遺跡 集石



3D体験



AR体験



六反ヶ丸遺跡 木製品



3D体験



AR体験

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

当センターのホームページ及びフェイスブックは右側のQRコードからお入りください。

Instagramは、(https://www.instagram.com/kago-shima_maibun)からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第94号

発行日 令和7年2月28日
 編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 〒899-4318 鹿児島県霧島市
 国分上野原縄文の森2番1号
 TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
 URL:<https://www.jomon-no-mori.jp>
 E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp